

129. 「ガラパゴス化していませんか？」

ソリューション推進室長 佐藤 泰治

新年度を向かえ、皆様にはお忙しい日々を過ごされていることと存じます。日本下水道事業団（以下「JS」という。）でも4月に、新たにソリューション推進室が設置され、下水道事業の「ソリューションパートナー」として自治体の皆様が抱える課題解決をお手伝いすることとなりました。どうぞよろしくお願ひします。

さて、4月といえば桜のシーズンですが、JS本社の近くには東京の花見の名所として有名な上野恩賜公園があり、夜桜見物の花見客で連日にぎわっています。公園内はライトアップされ、宴会ができることなどもあり、とても人気があります。ただ早朝から、場所取りのブルーシートが目立ち少し興ざめですが、学生・サラリーマンに加え、西洋・東洋を問わず諸外国の花見客が多くびっくりします。日本伝統の花見も国際色豊かになっています。我々の下水道界も、TC224（2002年に設置された国際標準化機構（ISO）上下水道サービスの国際規格化を検討する委員会）での国際規格化に始まり、ここ数年来、「コンクリート防食技術」「MBR」などの国際規格化の動きがあり、グローバル化が進んでいます。外国に進出する企業にとっては、国際規格化は重要で、業務そのものに直結します。例えば、海外進出したある企業はJIS規格で製作した機械の溶接部分が当該国での規格ではないので現地で納入拒否されそうになるなどのトラブルがあるそうです。我々下水道分野に関しても日本国内では通用する規格も他国からはガラパゴス規格と思われるかも知れません。ちなみに例に挙げた溶接に関しては規格の内容、溶接実施者の資格など、多大の時間と労力をかけて、日本の技量の高さを説明しやっと納入できたそうです。

一方、国内の各下水道事業体はどうでしょう？ 下水道事業が成熟化しつつあるなか、各自治体のおかれる条件も異なり、省エネ対策、地球温暖化対策、津波などのリスク対策など様々な課題への対応が求められています。課題解決は当然として、いままで最善の手法として続けてきた維持管理手法、経営手法等々はガラパゴス化していませんか。広い視点を持ち、改革すべき点を検証する必要があるのではないのでしょうか。

新たにできたソリューション推進室を活用いただければ幸いです。